

SDGs トリシマの具体的な取組み

SDGs 目標13番[気候変動]

13 気候変動に
具体的な対策を



気候変動に具体的な対策を

“気候変動から地球を守るために、今すぐ行動を起こそう”

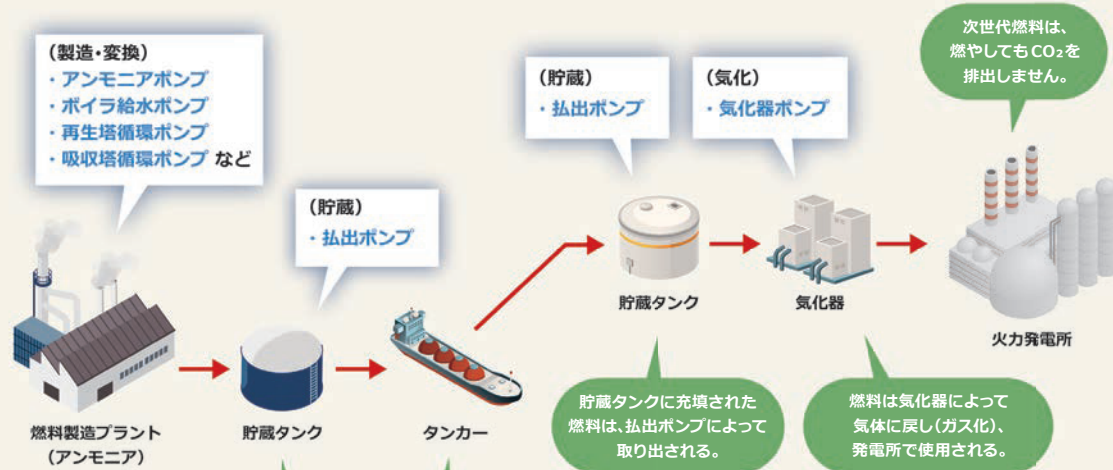
私たちの身近なところでも、着実に気候変動による影響が出てきています。2022年6月には東京で9日連続で35℃を超える猛暑日を記録し、観測史上最長となりました。また、スーパーで安く購入できていたサンマは温暖化の影響で漁獲量が減少し価格が高騰、庶民の味方ではなくなりました。ほかにも、海面上昇や食糧不足、生態系の変化、災害の頻発など多くの影響が及んでおり、地球の気温にいたっては、2100年には最大で5.7℃上昇するという予測もあるほどです。

このように、昨今の気候変動を要因とする、人の命をも危険にさらす凄まじい異常気象や地球温暖化に対して、エッセンシャルカンパニーであるトリシマができること・やらなければいけないことを紹介します。

そもそもトリシマは、**1919年の創業時からポンプの高効率化(省エネ化)を追求**してきました。当時は、「気候変動対策」なんていう意識はまったくなかったと思いますが、少しでも消費電力の少ないポンプでお客様に喜んでもらおう、社会の役に立とう、という想いは強かったはず。そのバトンを受け継いだ私たちが今、気候変動への対策として新しく挑戦しているのは、**次世代エネルギー源であるアンモニアや水素を取扱うポンプの開発**です。

まず**アンモニア用ポンプの開発**は、設計・研究開発部門と営業部門が連携して取り組んだ結果、高い評価を受け、**火力発電所における日本初のアンモニア混焼実証事業にトリシマも参画**することとなりました。今後は施設の大型化へ向けて、製品のさらなる高機能化に取り組んでいます。また、水素用ポンプに関しても、専門機関と連携しながら研究開発を進め、**2023年度中には実液での性能試験に臨む予定**。液化した水素は-253℃と扱いが難しく、越えなければならないハードルが多々ありますが、実用化に向けて私たちがいち早く製品化し、世界No.1をめざしていきます！

次世代燃料の供給ライン用ポンプ (アンモニアのサプライチェーン一例)



アンモニアや水素は液化して体積を小さくし、貯蔵・運搬される。

次世代燃料用ポンプの開発だけでなく、汎用ポンプでも省エネを徹底的に追及し世界トップレベルの効率を実現したスーパーエコポンプもまもなく本格リリースするよ!!

